

駒澤大学所蔵外邦図の整理状況について（中間報告）

大槻涼（駒澤大学・学）

．はじめに

駒澤大学は、多田文男(1900-1978)が持ち込んだとされる、多くの外邦図を所蔵している。しかし、総合的な調査はおろか、いまだ詳細なインデックスマップや目録の作成がなされていなかった。2003年11月に駒澤大学で開かれた外邦図研究会を契機として、2004年4月から駒澤大学応用地理研究所のプロジェクトの一つとして整理作業を開始した。2004年12月現在で整理した外邦図について、『駒澤大学所蔵外邦図目録』にまとめた。

．これまでの整理作業

学内で有志を募り、これまでにのべ35日にわたり整理作業を続けてきた。

駒澤大学の場合、学内における外邦図の存在はほと

んど知られていなかった。普段、人が立ち入らない、図書館の一室と地図室の2カ所に分割され保管されていることも一因であった。そのためか、所蔵枚数の把握がされていないままだった。そこで一枚一枚数え上げることから作業を開始した。

目録作成にあたり、東北大学理学研究科地理学教室(2003)との整合作業もあわせて行った。この過程で、東北大学理学研究科地理学教室(2003)にない地図を461枚発見した。

．成果

(1)駒澤大学所蔵外邦図目録

2004年12月現在で整理できた地図3280枚について目録を作成した。駒澤大学に所蔵されている外邦図のうち、地図室にあった地図を対象にしている。調査項目は、東北大学理学研究科地理学教室(2003)に準拠し

表1 駒澤大学所蔵外邦図目録に掲載した地図の一覧

大地域名	地域名	枚数	%	大地域名	地域名	枚数	%	
東アジア	東亜1/50万	57	2.5	オセアニア	ニューギニア島	241	10.9	
	日本	12			ハワイ	61		
	韓国および北朝鮮	6			ソロモン諸島	16		
	台湾	3			ミクロネシア	10		
	韓国	1			ビスマルク諸島	6		
	満州1/50万	1			ニューカレドニア	5		
	千島列島	1			マーシャル諸島	4		
計	81	西部パプア	3					
東南アジア	インドネシア	932	42.5		太平洋	3		5.1
	仏領インドシナ	123			ニューギニア	3		
	マレーシア	123			ビスマルク群島	2		
	フィリピン	59		グアム	1			
	インドネシア・セレベス島	53		ニューアイルランド島	1			
	タイ	38		計	356			
	インドネシア・ボルネオ	34		オーストラリア	165	1.5		
	ビルマ	21		ニュージーランド	1			
	インドネシア・サンギヘ島	5		計	166	0.1		
	仏領インドシナ	5		アメリカ	アラスカ		41	
計	1393	アリューシャン	7	0.7				
南アジア	インド	1137	36.9		計	48		
	セイロン	58		ヨーロッパ	フランス	2		
	インド・タイ	16		計	2			
	計	1211		その他(調査中を含む)	計	23		

ている。

内訳:東アジア:81枚

東南アジア:1393枚

南アジア:1211枚

オセアニア:356枚

オーストラリア:166枚

アメリカ:48枚

ヨーロッパ:2枚

その他(調査中を含む)23枚

地域ごとの詳細な枚数を表1に示す。東アジア地域よりも東南アジア地域が際立って多かった。これは、多田文男が踏査した中国を含んでいないためと思われる。これらの地域は分割され図書館に所蔵されていると考えられ、今後の整理で明らかになるであろう。

(2) 駒澤マップアーカイブズニュースレター

作業の詳細を報告する目的で、『駒澤マップアーカイブズニュースレター』を創刊した。12月現在でNo.1からNo.3まで発行している。

・今後の課題

今後以下の作業が必要になっている。

- (1) 作業工程の再検討
- (2) 目録とインデックスマップの充実
- (3) 保管法と補修法の確立
- (4) 地図の識別

駒澤大学の場合、ほとんどの外邦図が、通気性の乏しいスチール製のキャビネットに納められている。このため劣化や汚損が進んでいる地図もある。早急な保管法と補修法の確立が必要になっている。また、大量の地図を管理するために一枚一枚の地図を如何に識別し、登録漏れや重複を避けるかが問題になっている。直接、地図に番号を書き込む訳にもいかず、対策に苦慮している。

文献

東北大学大学院理学研究科地理学教室 2003. 『東北大学所蔵外邦図目録』



これは駒澤大学に所蔵されている貴重な地図の整理状況を皆様にご覧いただくためのニュースレターです。不定期で発行します。

地図の拠点づくりを目指しています

駒澤大学は、たくさんの地図を持っている大学です。その一部は小池一之先生が図書館長を務めていらっしゃったとき、「駒澤大学図書館所蔵地図目録-1」として整理されました。この目録の中に、「未整理」となっている地図が含まれています。この「未整理」地図にこそ、他では見られない幻の地図、面白い地図から、研究に必要な地図があるらしいということが分かってきました。地理学科や歴史学科の先生が地図を探そうとされたことがあると伺いました。しかし、いったいどの・どんな・いつの地図が、どこにあるのかさえ分からない状況でした。先生に限らず、学生にも、誰にでも見たり使ったり、地図を楽しんでもらいたいと考えています。

地図の整理を始めるきっかけとなったのは昨年11月に駒澤大学で開かれた「外邦図研究会」でした。そこで駒澤大学にあまり知られていない地図が沢山あり、かつ、見てみたいと思ってもなかなか見れないことを知りました。その時は、地図の整理についてはほとんど知識も技術もありませんでした。

私たちは今のうちからこの貴重な財産をきちんと整理していこうと考えました。応用地理研究所のプロジェクトの一つとして位置づけ、博物館学講座の太田喜美子先生のご指導を仰ぎ着手しました。地理学科と歴史学科の有志学生を中心に、多くの方の協力のもと進めています。

今年は、体育館一階にある、地図室に保管されていた外邦図（後述）の整理を進めています。当初、保管されている地図の正確な枚数や地図の整理はどのようにすべきか分からず、試行錯誤の連続でした。今夏には埼玉県小川町で合宿を行いました。地図室にある外邦図については今年度中の目録完成を目指し作業を進めています。
大槻 涼（地理学科4年）

外邦図とは？

幻の秘密の地図

外邦図とは、戦時中に日本陸軍参謀本部陸地測量部が作成した外国の地図のことである。日本周辺諸国は勿論、シベリアやインド、アジア大陸内陸部や、太平洋のほぼ全域、オーストラリア、北米などにもおよぶ広大な範囲にわたり作成された。多くの地図は「極秘」「秘」扱いのような軍事機密となっていたためその存在があまり一般に知られてこなかった。実際に戦地での任務が完了するとその場で焼却処分されたという。地図の使用目的から、秘密裏に測量され、作成されたために、地図作成過程では戦死や、海外で病死された方も多い。しかし全てが陸地測量部の測量によって作成されたわけではなく、外国で発行された地図の地名や凡例を日本語に書き換えるなどの調整をして、完成したものも含まれている。

第二次世界大戦が終結した際に外邦図はそのほとんどが処分・散逸した。しかし、この中から処分・散逸を免れ、現在まで残っているものがある。それらは現在、東北大学、東京大学、お茶の水女子大学、大阪大学、京都大学、広島大学などの大学や、国立国会図書館、岐阜県図書館世界分布図センター、国土地理院などに所蔵されている。所蔵数が最大の東北大学は1995年から整理を開始し、「東北大学所蔵外邦図目録」（2003）を完成させている。

駒澤大学には多田文男先生が持ち込み、整理が不完全のまま地図室や図書館に保管されていた。駒澤大学は去年開かれた「外邦図研究会」を契機として準備を始め、今年から「東北大学所蔵外邦図目録」を元にやっと整理を始めた状態である。他の大学では整理が進み、駒澤大学が一番出遅れている。早急に整理を進めることが重要である。
上條 孝徳（地理学科2年）

これは駒澤大学に所蔵されている貴重な地図の整理状況を皆様にご覧いただくためのニュースレターです。不定期で発行します。

活動報告Ⅰ（4月から7月の作業）

4月15日：体育館地図室から神文化歴史博物館へ運び出し・数量把握
4月28日・5月26日：仮番号の貼付
6月9日・16日：整理番号の貼付
6月16日・23日・29日・30日：地図の読み込み
6月30日・7月7日：冊ごとの枚数把握

4月から、手探りの状態でしたが、地図の整理を開始しました。駒澤大学の外邦図の場合、その正確な枚数すら把握できていませんでした。そこで地図をキャビネットから出し、数えることが最初の仕事でした。作業スペースの関係上、一度地図室から運び出し作業をしました。一枚一枚の地図を識別するために、番号をつけました。地図の読み込みは「東北大学所蔵外邦図目録」との整合を中心に行いました。



整理番号貼付の様子

活動報告Ⅱ

4月21日（財）地図情報センター（神田神保町）の村野京一さんに地図整理法とデータベース作成・運用の方法をご指導いただきました。
6月19日・20日外邦図研究会（お茶の水女子大）に参加
7月15日外邦図に関する説明会を駒澤大学第1研究館1階で開催

第1回夏合宿

7月合宿を行い、一気に整理を進めることになりました。朝9時頃から深夜まで約3000枚の地図と格闘しました。作業の中で、『東北大学所蔵外邦図目録』にない地図の発見も相次ぎました。

合宿の概要

日時：2004年7月18日から23日まで
場所：埼玉県比企郡小川町 小川町ラドンセンター



読み込み作業の様子

駒澤大学で今回発見された外邦図の一例

地域名	記号	図幅名	縮尺
フィリピン	呂宋島5万分1図 第14號	ツゲガラオ	1:50,000
フィリピン	呂宋島5万分1図 第42號	チタリ	1:50,000
フィリピン	呂宋島5万分1図 第3239號	サンファピア ン	1:50,000
ビルマ	No.86 M/N.W	BURMA	1:125,000
ビルマ	No.85 K/N.E & K/N.W	BURMA	1:125,000
ビルマ	No.85 L/S.W	BURMA	1:125,000

第1回夏合宿は、連日の熱さと埃にもめげず約3000枚の地図を短時間のうちに集中的に整理できました。多くの発見があり、地図についても多くのことを学ぶことができました。これを機会に地図の整理も弾みがつくのではないかと考えています。

合宿終了後に参加した学生から感想を募りました。

私が外邦図の整理に参加したのは、私が軍事史を専攻しているので興味があったからです。今回の整理を通じて貴重な歴史的史料の整理し、後世に残す事の重要性を実感することができました。非常に良い経験ができたと思います。

青木 浩平 (歴史学科4年)

私は、外邦図が何なのか、どんなことをするのかも知らずに参加してしまいました。しかし作業を通して、地図の価値や、地図を見る楽しさを改めて感じることができ、とてもよい経験になったと思っています。熱心な2年生から学ぶことも多く、卒論にむけて気合いを入れ直すきっかけにもなりました。

磯谷 有記 (地理学科4年)

地図についての知識がまったく無い状態だったのでかえってみなさんの足手まといになったかと思えます。最初はあの外邦図の価値が分かりませんでした。しかし作業に参加していくにつれて大変貴重なものだったことが分かりました。歴史的にも大変価値があり、今後いろんなテーマで研究ができると思います。駒大に残っていた外邦図が今後どうなるかは地理学科のみなさんにかかっています。貴重な資料です。どうか役立たせてください。微力ではありますが私にできることがありましたらなんなりと申して下さい。

最後にみなさんの研究のさらなる発展をお祈りいたしまして結びとさせていただきます。

梶田 弓枝 (歴史学科4年)

外邦図というたいへん貴重な生の資料の整理作業にたずさわられて誇りで、自分は幸せだと思いました。そして3000枚を超える外邦図の整理作業を終え、どんなこともやればできると自信がついた。作業の終わっている東北大学や京都大学に比べたら、まだまだ通過点に過ぎないが駒澤大学の名にかけて、すべての外邦図を片付けたいと思いました。

後藤 慶之 (地理学科2年)

私が外邦図の整理作業を行うきっかけとなったのは、地図学の授業中に中村和郎先生が外邦図の紹介をし、作業者の募集を知ったからである。こんなにも重要で価値のある地図が駒澤大学にある。ましてや保存状態があまり良好ではないと聞いて、いてもたっても居られなくなった。

大学での作業は手探りの状態であったが、夏休みを利用しての合宿にも参加することになった。3000枚以上に及ぶ地図室の外邦図を梱包し合宿先に送った。一週間あまりの合宿で一応の終わりを迎えることが出来た。しかし作業は一筋縄にいかず試行錯誤の連続であった。この経験を生かしこれからの整理作業を進めていきたいと思う。そして一日も早く駒澤大学の外邦図目録を完成させたい。

上條 孝徳 (地理学科2年)

私は今年の5月に地図学の授業で、外邦図の作業のことを聞き、「駒澤のために」という思いで参加をしました。今から約60年前に終わった戦争で使われたということもありますが、地名の表記、地図記号の使い方に独特な面がある他、今夏埼玉県で行われた合宿では新発見の物もありました。

前にも書いたように外邦図はその誕生の背景は決して良いものではないですが、駒澤地理の貴重な財産を守っていきたいです。

中田 帆貴 (地理学科2年)

仕事は地味で、単純作業の連続です。しかも外邦図が古い分ホコリまみれで、しかも地図が汚れないように、また飛ばないように窓を閉め切って作業をします。このおかげで作業部屋はずこくホコリっぽく、空気は最悪な状態で、日に日に体調が悪くなります。しかし一年次から地理を専門的にやりたかった私にとって地理関係で専門的な事に立ち会える喜びは格別です。これからも外邦図の整理をがんばりたいです。

吉原 輝也 (地理学科1年)

外邦図というものが何なのか全く分からないのに、整理に参加しました！そもそもそんなにわざわざ小川町までいったんですか？はじめての土地でわくわくしました。作業も少ししか手伝っていないので詳しくは何なのか分かりません。地図の第一印象はなんといいもきたないなあと思った。鑑定団にでてくる絵とか図とかみたいな綺麗だと思ってた。破れたりしてそんなんでいいのかなあなんて思ったりもしました！

森田 純平 (地理学科1年)

これは駒澤大学に所蔵されている貴重な地図の整理状況を皆様にご覧いただくためのニュースレターです。不定期で発行します。

9月25日・26日に広島大学で開かれた日本地理学会で「外邦図の基礎的研究

——旧日本軍が作製したアジア太平洋地域の地図の活用をめざして——

（オーガナイザー） 小林 茂（大阪大）・田村俊和（立正大）・石原 潤（奈良大）」がありました。外邦図の研究に携わっている全国の研究者が

広島大学の日本地理学会に参加して

9月26日の午後から外邦図の学会発表があるということで、4年生の大槻さんと2年の上條と後藤の3人で、日帰りの強行日程で広島大学へ行きました。朝5時に家を出て朝一番の7時の飛行機で向かいました。

私たちは、今年5月から駒澤大学にある外邦図の整理をやってきて、夏休みにも合宿をして集中的に整理をしてきましたが、その整理を東北大学に整理の仕方などを参考にしてきました。広島大学で開かれた学会には、その東北大学をはじめ全国で外邦図を研究しているたくさんの人たちが一堂に集まりました。



会場の様子

発表を通して外邦図が流出した複雑な経緯が分かり、日本軍は満州をたくさん作っていたことや、アメリカのワシントンやイギリスやカナダや旧ソ連にも秘密だった外邦図があるということが分かりました。ほかにも、朝鮮半島の外邦図の作成過程について発表がありました。朝鮮半島は、場所により作られる年代が違ったりしていて、その時代の土地の重要度の違いが分かりました。私が一番強く感じたのは、外邦図を作るにあたって、たいへんな労力、たくさんの犠牲などいんな人々の思いが詰まっているということです。



私たちは会場で、駒澤大学にある外邦図の本格的な整理を始めたことを参加者に報告し、東北大学の目録*には記載のない、350枚近くの外邦図のリストを配布しました。

駒澤大学には海図を含めてまだまだ数万枚の外邦図があります。私たちは外邦図については知らないことばかりなので、この学会に参加してとても勉強になったし、今後の作業で疑問に思っていたことも教えてもらい、参考になりました。これからも外邦図についての集まりがあるということなので積極的に参加したいと思いました。外邦図の整理もまだまだたくさんあり大きな壁ばかりでたいへんですが、いろいろな方々の力をおかりしながら頑張っていきます。

後藤 慶之（地理学科2年）

*「東北大学所蔵外邦図目録」（2003）：東北大学は95年から外邦図の整理を始めました。現在多くの大学がこの目録を整理の参考に使っています